平成２８年度　第２回安来市総合教育会議　議事録

１．日　時　　平成２８年１２月１２日（月）１５時３０分から１７時

２．会　場　　安来中央交流センター　第６会議室

３．出席者

（構成員）　安来市長 近藤宏樹

教 育 長　勝部慎哉

教育委員 少林浩道

教育委員 森井優

教育委員 加藤隆志

教育委員　三輪喜美代

　（事務局）　教育部長　奈良井丈治

教育総務課長　吉野文康

学校教育課長　難波真章

総務課長　前田康博

教育総務課総務係長　宇名手由子

総務課専門官　堀内志美栄

（司　会）　総務課長　前田康博

４．傍聴者　　1名

５．議　題　　①いじめ問題について

　　　　　　　②子どもの貧困について

③外国語教育拡充の施策について

　　　　　　　④その他

６．内　容

○前田総務課長

皆様にはお忙しい中、総合教育会議にご出席いただきまして有難うございます。ただ今から、平成28年度第2回安来市総合教育会議を開催いたします。本日の会議の進行を行います総務課長の前田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、近藤市長にご挨拶をいただきます。

○近藤市長あいさつ

ただ今より、平成28年度第2回安来市総合教育会議を開催させていただきます。教育委員の皆様方におかれましては、公私にわたり何かとお忙しい中ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、11月9日より新たに教育委員にご就任いただきました三輪喜美代様におかれましては、本市の教育行政の推進にお力添えをいただきますよう、よろしくお願いいたします。

さて、今回の総合教育会議では、「いじめ問題」、「子どもの貧困」、「外国語教育の拡充施策」等について、意見交換をさせていただきたいと思います。私どもの使命は、安来市の財産である子どもたちが将来への夢や希望を持ち、一人一人が生きる力をしっかりと身につけることが出来る教育環境の整備に取り組むとともに、地域社会全体で子どもたちを育んでいく環境を構築することであると思っております。

忌憚のないご意見をいただき、市の教育施策に反映してまいりたいと思います。よろしくお願い申し上げ、簡単ではございますが開会にあたりましての挨拶といたします

○前田総務課長

ありがとうございました。それでは、会議に入らせていただきたいと思いますが、本日の会議は概ね１時間半を予定しておりますので、ご協力をお願いいたします。それでは、安来市総合教育会議設置要綱の規定により、市長に議長として会議の進行をお願いいたします。

○議長（市長）

それではレジメに従って進めます。

今日は子どもを取り巻く環境について、いじめ、子どもの貧困、親の虐待、そういうところにスポットを当てて、委員の皆様方のご意見をいただき共通意識をしていきたいと思います。また、外国語教育の拡充についても意見をいただきたいと思います。

まず、議題（１）「いじめ問題について」説明をお願いします。

○難波学校教育課長

　（資料に基づき説明）

○議長（市長）

　いじめは早く対応していかなければならないと思いました。いじめる方はたいしたことに思っていなくて、いじめられた方は自殺まで考えるんですね。

○森井委員

　昔はいじめではなく、いけず、いたずらだった。それに地域の監視、目が有った。地域の人が注意して見守ってくれていた。しかし近頃は地域の方も遠慮しておられるような気がする。なかなか注意出来ない状況がある気がしていまして、私もそういうところを見かけたらきちっと言わなければいけないと思っていますが、今地域の協力が低くなっている感じがします。

○少林委員

　いじめは今、差別化していじめに発展していると思う。寛容な心で認め合い、許し合えることが出来る社会。これが根底にあると思うんですけれど、社会は子どもだけで出来ているのではなく、学校は社会の縮図とも言いますけれど、大人の社会の中の人間関係が安定すれば子どもも安定すると思う。安来市ではあまり大きな問題もないですが、人の心を耕すような社会教育が大事ではないかなと思います。

○加藤委員

　昔と今では、いじめの仕組みが違ってきている。昔はガキ大将がいて、学校側はそのガキ大将を御することで何とか出来ていた。けれど、今は大人の目、教員の目のレベルでは分からない。気づくことさえ出来ない。その延長で今悩みをどこにぶつけるかが分からないので自死を選んでしまう。今の子ども達は、もの凄いストレスを抱えているのだなぁと思います。昔は相談出来る人がおられたので、ストレスも発散できたと思います。

○三輪委員

　いじめに関する記事を新聞等で読むと心が痛みますが、何でもひとりで抱えてしまう子が多く、誰にも相談出来ない子がこんなに多いんだなと思います。子ども達の生活を見ていますと、いろいろな事をいっぱいさせられて本当に余裕のない短絡的な生活になっているのかなと思います。学校の中でも、そういう子どもの心をキャッチして話を聞いてあげるポストの先生を作って欲しい。やはり、本音を言える友達等が必要です。

○教育長

　今、小・中学校ということで話が出ていますけれど、おそらく、就学前からの子ども達の係わりとか、家庭の支援、教育支援というものを考えながら、小・中と繋げて、地域で支援をしていく必要があると思います。学校については、全教職員のチームワークといいますか、全体としての組織としての対応が大事になっていくと思います。何れにしても、自ら命を絶つということが起きてはならないと思いますので、家庭、地域、学校が協力していかなければならないと思います。

○議長（市長）

　社会規範が崩れてきている。常に愛しむ、いたわる、思いやることがなくなっている。みんなで解決していかないといけないという意識が少なくなっていると思います。みんなで子どもを育てていくことが大事だと思う。

○加藤委員

　今少子化で、子どもたちは親から受ける期待が大きいと思います。子どもは親の期待にも答えなければならない。学校の成績も上げないといけない。もう少し家庭にもゆとりのある環境が作れればいいと思います。一日の大半は学校で過ごしますから、先輩、後輩との係わり方、先生との係わり方が一番です。一対一で子どもの話を聞き、ゆとりをもってもらうのが良いと思います。

○少林委員

　今なんでも学校にお願いして、学校の先生方は大変だと思います。ゆとりの話ですけれど、学校、家庭にもゆとりがない、そしてゆっくり落ち着く所もない、ゆっくり話せる人もないということで、ストレスにもなっているのではないかなと思います。学校はいじめの現場ですので学校の努力は必要ですが、その背景として家庭や地域にも努力することがいっぱいあると思います。

○森井委員

　先生不足も原因のひとつであるのではないかと思います。業間とか休み時間などの見守りが出来ていないのではないかと思います。昔はそんな時間にも見ていただいていたように思います。今、先生も子どもも忙しく、きわめて細やかな対応が出来ていない。子どもはコミュニケーション能力も低下している。目配り、心配りが出来るよう先生をきちんと育てなければならないと思います。

○議長（市長）

　日本の先生は世界一忙しい。

○三輪委員

　自分も問題が起きた時には、親さんに話しをして協力しながらやってきました。ＰＴＡの協力が必要だと思います。ひとりで抱え込まないで協力してもらえる体制を作って行くことが大事で、同じ目線で見てもらったりでいいこともあるのではないかと思います。今は養護の先生とかカウンセリングの先生がおられますが、そういう先生がもっとおられると少しは緩和していくのではないかと思います。

○教育長

　親に対しても研修が必要。いじめは何時でもどこでも年齢に係わらず起きる。いじめるほうが100％悪い。一過性のものではなく、相手に悪意があるということ。どんなことであっても人権上でもしっかり丁寧に対応して行こうと思っております。みんなで親身になって考えてあげるということがもっとも大事なことであって、安来市の先生方が、生徒指導で困った時には、大変な方を選んでくださいと話しています。例えば電話で済まそうか、家庭訪問をしようかと迷った時には、是非家庭訪問をして話をしてください。と言っている。そういう時こそ大変な方を選んで欲しいとお願いしているところです。

○議長（市長）

　虐待の実態を福祉課の方と連携を取って、安来市で大きな事件にならないようにお願いしたい。

○少林委員

　校内で難しい問題が発生した場合には、どうしても担任教員が自分の責任と思い、全部自分で解決していかないといけないと考えがちです。教員の方が参ってしまうので、学校としてのチームワークを良くして欲しい。

○議長（市長）

いじめ問題はいろいろ問題等有りますが、今回はこれで終わりたいと思います。

続きまして議題（２）「子どもの貧困について」に進みたいと思います。

○議長（市長）

この頃よく、テレビの報道で子どもの貧困について特集をしております。この豊かな時代に6人に1人は貧困の対象と言っています。安来市の給食費援助対象者は小・中学校で275人、9.17％、平成26年度から１％以上多くなってきている。その子ども達をどうしたらいいか考えて欲しい。

○加藤委員

　子ども食堂のことですが、十神ライオンズクラブで「子ども食堂」さんから来てもらって、食堂推進ということで話を聞きました。内容は日曜日だけ第一病院の職員さんがボランティアでひとりずつ出られて、バイキング形式で30名～40名来られているそうです。実態はその子達が貧困であるのかというとそうではない。そういう子は殆んど来ない。でもまだ認知度が低いのでＰＲして回っている。学校などにもＰＲに行かれますけれど、学校からは「いじめに繋がりかねないので止めてください」と言われたようです。

本当はそういう子ども達のために支援をしたいけれど実際は、なかなか難しいようです。我々ライオンズクラブでどうすれば良いかと考えた時に、子ども達にボランティア活動をさせて御褒美として200円券をあげて食堂に行くというふうにすれば恥ずかしくもないかも知れない。

　どじょっこさんは4月から、また、他にもそれに近いことをされた方もおられます。それは、一緒に作業をすることでそのご褒美として何かをあげる。私が知る限りでは、山梨県のＮＰＯ法人が小・中学校が協力してフードバンクの申請書を全家庭に配っています。必要な方は、ＮＰＯ法人事業所にそれぞれ申請書をだして品物を受け取られる。目に付くとか、目に触れるとかということがいけないので大変難しいです。

○議長（市長）

フードバンクは、安来市では社会福祉協議会がやっています。しかしそれを利用しない家庭があり、困窮していることを把握できない。総合教育会議でも認識しておかないといけないと思います。

続きまして議題（３）「外国語教育拡充の施策について」に進みたいと思います。

○教育長

　平成32年に、小学校5、6年が外国語強化として週2時間になる。同じく3・4年生は今ないものが週1時間、外国語活動となる。2年前の30年から移行措置ということで始まり、平成32年から本格的に始まります。来年は29年ですのでしっかり考えていかなければならないと思います。

　国がどういう考えか分かりませんが、人的配置も必要になってくると思いますのでしっかり考えないといけないと思います。

○難波課長

　安来市の方は、先行して外国語教育ということで、先を見据えた教育を行っていると思っております。教育委員会としては、重点的にと言うことで、授業で日常生活に英語あふれる学校として学校指定するとか、高校とも連携しながら取り組んでいけたらいいなと思います。

○議長（市長）

　文科省も日本人は何故英語が話せないか分からないと、言っている。東大を出ている人も9割ぐらいは英語が喋れない。英語は一番難しい、なかなか日本人は喋れない。

○森井委員

　やはり、小さい時から親しませなければならないと思います。それから、高校生の生徒さんが中学校や小学校に行って自分が勉強してきたことを授業参観する。地域一体となって勉強するっていいことだなと思います。しかし、日本の英語もいいですけれど、本場の英語に触れると良いと思います。それには予算が必要ですけれど、市長さんがどう考えられるかで期待するところです。

○少林委員

　始まるのが32年で、まだ先のことだと思いますが、英語の授業を教員に勉強してやれというのは非常に酷な話でして、やはりＡＬＴの拡充をするような方向で準備していかないといけないと思います。

○三輪委員

　外国の人は2ヶ国語話せる人が多い、日本は1ヶ国語しか話せない、では将来2ヶ国語話せるようになるという目標を持っていくと楽しく良いと思います。

○加藤委員

　生の英語とどれだけ触れ合えるかが一番重要であると思います。頭が柔らかい時期がよく、小学校・中学校になってからでは受験対応の英語になって、それでは先の道がないと思います。

　小学校低学年の時期の国際交流、ＡＬＴさんの増員を一日でも早く実施して欲しいと思います。

○教育長

　外国語教育として、安来市としては、幼稚園から高校まで一貫性をもった教育の取り組みをしていきたいと思っています。市の方でも予算化していきたい。市長さんにもお願いすると思いますが、よろしくお願いします。

○議長（市長）

他に何かありませんか。無いようでしたら今日の議題につきましては、これからも検討していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。その他、事務局の方で何かありますか。

○前田総務課長

今年度の総合教育会議は緊急な議題など無ければ、今回の会議で終わりとしたいと思います。

平成29年度につきましては、5月、10月ごろの2回予定しております。ご意見、ご提案等ありましたら総務課までお願いいたします。以上です。